

「Present Tree in くまもと山都」が開催されました！

4月19日、山都町新小地区で植樹イベント「Present Tree in くまもと山都」が開催されました。この活動は、伐採された森に広葉樹を植えることで再生を図り、さらに都市部の人々と地元住民の交流を通じて地域の活性化を目指す取り組みとして、認定NPO法人環境リレーションズ研究所の主催により、2020年に始まりました。郡市部からの参加者や地域住民の方々、矢部高校林業科学科の生徒たち、坂本町長などが参加し、生徒が育てたクヌギの苗347本を含む広葉樹を杉の伐採跡地に植樹しました。今回参加した矢部高校三年生の小柴馨さんは、「自分たちで育てた苗を植える経験は、大きなやりがいを感じました。地道な活動が自然環境の未来につながることを実感しています」と語りました。さらに、クヌギが根を張ることで土壌を守り、地域の自然環境の維持や水源保全に役立つことに触れながら、「この素晴らしい熊本の自然を守り続けたい」と力強く話しました。山都町が未来へ紡ぐこの活動に今後もぜひご注目ください。



左からロクシタン山下社長、
竹内熊本県副知事

清和文楽が東京の「MoN Takanawa: The Museum of Narratives」で公演

2026年4月、熊本地震発生から10年を迎えました。ひとつの節目となるこの年に、復興に向かい力強く歩み続け、活気づく熊本県が新しい文化の創造・発信拠点であるMoN Takanawaのステージをジャックしました。そのイベントの一部で、清和文楽とONE PIECEがコラボレーションした人形浄瑠璃のミニ公演をいたしました。

4月11日、12日の公演時には多くの方の来場があり、山都町の伝統芸能を伝える良い機会となりました。



©尾田栄一郎/集英社 ©清和文楽新作制作事業実行委員会

蘇陽小学校で防災教育が行われました

4月17日、蘇陽小学校で山都町社会福祉協議会による防災教育が行われました。この授業は「かみましき命と防災の日」(4月14日)に合わせて5、6年生の児童16人を対象に実施され、防災カードゲーム「クロスロード」を用いて災害時の対応について話し合いました。「避難所で自分たちの非常食を周りの人に分けるか」という問いでは、「家族分がなくなるから分けない」「親切心で分けてあげる」「支援があるから大丈夫」など、児童たちの間で様々な意見が交わされました。

社協からは「命を守ることで助け合いのバランスが重要」との助言があり、児童たちはゲームを通じて他人の意見を知り、自分の判断を深める大切さを学びました。今年は熊本地震から10年の節目となります。家庭でも災害時の備えについて話し合い、防災意識をさらに高めていきましょう。



オーガニックエコフェスタ2026 ジャガイモ部門最優秀賞受賞の報告

2月14日、徳島県小松島市で開催された「オーガニックエコフェスタ2026～体に美味しい農産物コンテスト」にて、グリーンファーム矢部の西山幸司さんがジャガイモ部門で最優秀賞を受賞されました。これまでも玉ねぎや人参で最優秀賞を受賞していましたが、5回目の受賞を機に坂本町長を表敬訪問されました。

受賞された西山さんは、土壌のミネラルや抗酸化への配慮を取り入れた栽培方法で、栄養価の高いジャガイモの生産に成功。今回の受賞は、食べる人の健康と美を支える農業の可能性を示すもので、他の農業者のモデルとなる取り組みとして高く評価されています。

西山さんは「農産物は食べる瞬間に付加価値が生まれる。今後は加工などの分野にも取り組みを広げたい」と意気込みを語られました。



最優秀賞を受賞された西山幸司さん(左)